

志教育の 視点	☒ かかわる ・ ☒ もとめる ・ ☐ はたす
------------	--

活動名	「進路決定者の話を聞く会」	「卒業生の話を聞く会」
教科・領域等	総合的な探究の時間	
活動学年等	1年次・2年次	
ねらい	進路決定者〈就職4名・進学3名〉が進路決定までの体験を在校生に話し、進路に向けた取り組みの参考にする。	本校卒業生〈就職2名・進学2名〉を講師として迎え、その体験を在校生に紹介していただき、進路に向けた取り組みの参考にするもの。
	具体的には、進路決定をするまでの経緯、就職活動や進学準備の状況、在学中にやるべきこと等のアドバイスを聞くことで、卒業後どのように生きていきたいか、進路選択についてより具体的に考えられるようにする。そして、今何をすべきか自覚できるようになることをねらいとする。	

【実践内容】

- 1 実施日 進路決定者の話を聞く会 令和6年12月19日〈木〉
卒業生の話を聞く会 令和7年 1月 9日〈木〉
- 2 活動の流れ
 - 〈1〉開会行事
 - 〈2〉講師紹介 … 講師の進路決定先や勤務先・進学先のスライドを交えながら、教員が紹介を行う。
 - 〈3〉講 話 … 企業・学校を選んだ理由、進路達成へ向けて行った努力、新生活の感想、在学中にやっておくべきことなどを中心に話をしてもらう。
 - 〈4〉質疑応答 … 講話が終わる毎に時間をとる。
 - 〈5〉お礼の言葉
 - 〈6〉感想の記入
 - 〈7〉閉会行事
- 3 指導上の工夫
進路ガイダンスや進路講話を行い、進路の方向性や疑問・不安を整理し、この会をきっかけに、高校生活に慣れるという段階から卒業後の進路を意識する段階への移行を図る。
- 4 生徒の感想（一部抜粋）

【進路決定者の話を聞く会】

- ・先輩方のお話を聞いて就職や進学に必要なことがたくさんあるとわかりました。なので、進路活動を早いうちに始めたいと思いました。また、先輩方が進路を決めるにあたって重視していたことも自分の進路を決めるときに思い出したいなと思いました。
- ・人に相談することが本当に大切だと思った。後回しにしないで、早めに進路について考えようと思った。
- ・自分はまだ興味があることはあるものの、やりたいことは見つかっておらず、いま将来に不安を抱えています。今回進路が決まった方の話を聞いて、自分のやりたいことや自分に合っている学校や職業に就きたいと強く思いました。そのために、学校や職業について調べたり、オープンキャンパスに行ったりして今後の進路活動に力を入れて後悔のないように頑張ろうと思いました。そして、私と同じような不安を抱えていたけど行きたい場所へいけた方がいて、少し自信ができました。

- ・オープンキャンパスに行く理由とメリットがとても多かった。学校の内容について知れることはもちろん、先生と面談してもらえる、自己アピールの材料になる、目指す道と合っているかを考えられる、先生などの人たちに顔を覚えてもらえるなど、試験で有利になることがたくさんあった。
- ・合同説明会とかにきちんと行っている。オープンキャンパスは何回も言った方が良いと知れて良かった。
- ・進学就職活動をするのに、スタートラインは人それぞれで、抱えている問題の壁の高さもそれぞれ。面接をする際にも自分をアピールするのに学校行事に積極的に参加することは本当に大切なんだと感じた。しっかりと自分で調べて向き合っていくことが進学・就職活動だけでなく、今後の人生の大半で必要になってくると思う。
- ・進学、就職どれを選んでも、進路先のことをよく知ること、説明会やオープンキャンパスに積極的に参加することが大切だと言うことがよくわかった。どの先輩方も、進路活動は早く始めた方が良いとおっしゃっていたので、私もより早く始めたいと思った。自分の中で考えるだけではなく、周りの人に相談することも積極的にやっていきたい。

【卒業生の話聞く会】

- ・4人の話を聞いて、やはり自分の好きなことを仕事にした方が良いのかなって思いました。働くためには勉強も必要であることもわかりました。先輩みたいになれるように頑張りたいと思います。
- ・基本的には高2の夏に進路を大体決めていて、高3の夏には進路を決定していた。もう1年次は終わりなので、ふんわりでもいいから進路を決め始めたいという危機感を持つことができました。
- ・時間をうまく使い、人とのコミュニケーションが大事になってくることがわかりました。
- ・自分のやりたいこと、学校や職業でやることなどの内容だけではなく、学校や職場の雰囲気なども話していて良かった。自分のやりたいことでのやりがいやモチベーションの維持も大切だが、長い時間を進路先で過ごすためには、進路先での人たちとの関係を良いものにすることが大切なことに気づけた。
- ・オープンキャンパスや面接練習などの人の繋がりがとても重要だというのがすごく伝わってきたと思った。とくに大学へ進学した先輩の自己理解ノート アイデアがとても素晴らしいと思い、自分も余り自己肯定感が高い方ではないため、とても参考にさせていただきたいと思いました。また、自分は人前で話すことが苦手なので、面接練習に力を入れようと思いました。
- ・時間の管理、体調の管理など今からでも遅くないことが大切だなと思った。日々の積み重ねが今後の進学・就職するにあたって、今の私が継続しなければいけないことだと感じた。自分の好きを生かすも殺すも自分次第になってくるので、慎重に考えていかないといけないと思う。

5 成果と課題

進路決定者の話を聞く会において、講師となる3多年次の生徒は事前に年次内の発表会を行い、進路決定生徒による代表選考を主体に、教員側が就職・進学活動への取り組み等を考慮して講師を最終決定している。そのため、身近であり、伝わりやすい表現を意識していることから、1・2年次生の今後の進路活動や学校生活への意欲が高めることができた。

また、卒業生の話聞く会において、勉強の必要性、早い時期の目標設定や時間やコミュニケーションの大切さなど、進路にかかわらず大切だと感じることを講師である卒業生が丁寧に伝え、生徒もそれを受け止めている様子がうかがえた。

課題は次の2点が考えられる。1つ目は、進路活動に限らず学校生活全般に消極的または関心がない生徒への働きかけである。そのような生徒の感想は「ためになった」などの短文が多く、講師の話を自分事として考えていないことが多い。2つ目は、得た情報や、情報から連想される考えの深まりなどを共有する場がないことである。現在の行事の多くが感想を記入するだけにとどまっていること、ホームルーム活動の目標に照らした場合、探究的な学習の観点として協働性を考えた場合のいずれでも、振り返りと共有、自身への課題設定などの流れは必要と考える。

次年度においては、計画段階で2点目の課題を解消する。1つ目の課題である消極的な生徒が自分事に引き寄せるための試みは、年次または学校全体で生徒の経験の差や個々人の実態を踏まえながら、職員研修などを活用しながら行っていければと考えている。